【新刊】人文書（民俗）ご担当者さま

まなざしのフィールドワーク

エンブリー夫妻が写した「日本の村」

田中一彦
Tanaka Kazuhiko



1935年（昭和10）から1年間、
熊本の小村・須恵村に滞在した
米国の若き人類学者夫妻が、
近代化とともに移ろいゆく
“協同の理想郷”の姿をつぶさに観察し、
写し撮った1609枚から厳選した写真民俗誌。

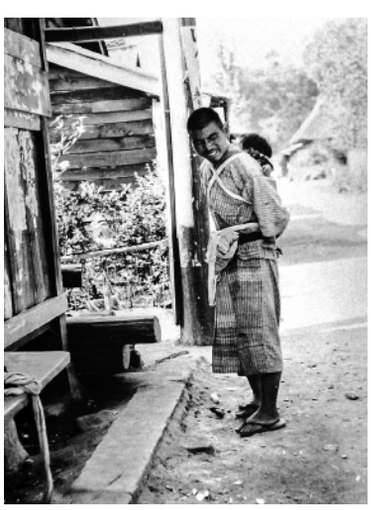
地方出版文化功労賞（2017年度）を受賞した
『忘れられた人類学者』のエンブリー夫妻が
撮影した貴重な写真から約400枚を厳選。
なぜその写真が撮られたかを
解説しながら、気鋭の人類学者が
感動と共感をもって観察した
戦前の農村の姿を描く。

これがたった90年前の日本!?

「女性たちは、兵隊や浮浪者などの仮装をして、
隣村の橋まで帰りの行列を迎えに出る。
女たちは、男のように卑猥な冗談を言い、
うら若い女子生徒を犯す振りをして、
必ず大爆笑とお祭り騒ぎの渦になる」
——ジョン・エンブリー


「農家の妻。暑い日に働く時の格好」


「この少年の頭には長い髪が一房残っているが、これは水に落ちた際につかんで溺死することを防ぐためのもの」


「赤ん坊の世話を任されている愛甲（この若者は目がよく見えない）」

定価：本体3,000円＋税

忘羊社 A5判並製・272ページ

エンブリー夫妻……ジョン・エンブリー（1908～50）はコネティカット州ニューヘイブン生まれ。10代を日本で過ごしたエラ・ルーリィ（1909～2005）と1932年に結婚。東アジア調査の一環として、エラと1歳の娘を伴い1935年に来日、まる1年かけ熊本・須恵村を調査。ジョンは第2次大戦中、日本を最もよく知る研究者として『菊と刀』のルース・ベネディクトらに影響を与える。戦後はイェール大学の東南アジア研究所長となるが、1950年に42歳の若さで交通事故死。戦後、エラは計3度須恵村を訪問。

番線	注文数	日付	お名前	新刊（人文・民俗）	ISBN978-4-907902-46-9
	冊		様	まなざしのフィールドワーク	本体 3,000 円 + 税

忘羊社（ぼうようしゃ）
〒810-0033 福岡市中央区薬院4-8-28
▶TEL 092 (406) 2036 ▶FAX 092 (406) 2093